

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和5年度前期日程試験解答用紙（数学）

【 解答例 】

〔注意事項〕

- ・ 監督者の指示があるまで解答用紙を開いてはいけません。
- ・ 全てのページの所定欄に受験番号、氏名を記入しなさい。

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和5年度前期日程試験解答用紙（数学）

第1問

(1) 偽。 $a = -b$ もあり得る。

(2) 真。

対偶命題は「 $x > 2$ かつ $y > 2$ ならば、 $x + y > 4$ 」であり、これは真である。したがって、元の命題は真である。

(3) 偽。 $n = 12$ は4の倍数かつ6の倍数だが24の倍数ではない。

(4) 偽。2は素数である。

(5) 真。

$f(x)$ に極大値と極小値が存在するので、 $f'(x) = 3x^2 + 4x + k = 0$ は2つの実数解 $x = \alpha, \beta$ ($\alpha < \beta$) を持つ。このとき、極大値は $f(\alpha)$ 、極小値は $f(\beta)$ であり、それらの和が0ならば、

$$f(\alpha) + f(\beta) = \alpha^3 + 2\alpha^2 + k\alpha + \beta^3 + 2\beta^2 + k\beta = 0$$

が成り立つ。一方、 α と β は2次方程式 $3x^2 + 4x + k = 0$ の解なので

$$\alpha + \beta = -\frac{4}{3}, \quad \alpha\beta = \frac{k}{3}$$

である。したがって、

$$\begin{aligned} f(\alpha) + f(\beta) &= \alpha^3 + 2\alpha^2 + k\alpha + \beta^3 + 2\beta^2 + k\beta \\ &= (\alpha + \beta)(\alpha^2 + \alpha\beta + \beta^2) - 3\alpha\beta + 2(\alpha + \beta) - 2\alpha\beta \\ &\quad + k(\alpha + \beta) \\ &= \frac{32}{27} - \frac{4}{3}k = 0 \end{aligned}$$

が成り立ち、 $k = \frac{8}{9}$ である。

第1問 得点	
-----------	--

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和5年度前期日程試験解答用紙 (数学)

第2問

(1) (i) より $f'(x) = 3x + 2ax + b$ である。

(ii) より, $f(-2) = -8 + 4a - 2b + c = 0 \dots (\text{ア})$

(iii) より, $f(3) = 27 + 9a + 3b + c = -25 \dots (\text{イ})$

(iv) より $x = 3$ で極値を取るので導関数の値 $f'(3) = 0$ である。よって $27 + 6a + b = 0 \dots (\text{ウ})$

(ア)(イ)(ウ) を連立一次方程式として解くと $a = -3$, $b = -9$, $c = 2$ となる。この値を代入して, $f(x) = x^3 - 3x^2 - 9x + 2$ を得る。

ここで $f'(x) = 3x^2 - 6x - 9 = 3(x-3)(x+1)$ となり, $f(3) = -25$ は極小値と確認できる。

答え: $f(x) = x^3 - 3x^2 - 9x + 2$

(2) x のある区間で $g(x)$ の導関数 $g'(x)$ の値が正であるとき, その区間で x が増えるにつれて $g(x)$ が増加する。また、 $g'(x)$ が負であるときはその区間で x が増えるにつれて $g(x)$ が減少する。

$\sin \theta$ は $0 < \theta < \pi/2$ で増加する。ここで $d > 0, e > 0$ より, $d \sin ex + h$ は $0 < x < \frac{\pi}{e}$ で増加するので (ii) に反する。 $d \cos ex + h$ は $0 < x < \pi/e$ で減少し, $\pi/e < x < 2\pi/e$ で増加するので, $e = \pi/10$ の時のみ (ii) と (iii) を満たす。

実数 x と $e > 0$ について $\cos ex$ の最大値は 1, 最小値は -1 なので, $d > 0$ のとき $d \cos ex + h$ の最大値は $d + h$, 最小値は $-d + h$ である。(iv) より連立方程式 $d + h = 5$, $-d + h = 1$ を解いて, $d = 2$, $h = 3$ 。

答え: $g(x) = 2 \cos\left(\frac{\pi}{10}x\right) + 3$

第2問 得点	
-----------	--

受験番号								氏名	
------	--	--	--	--	--	--	--	----	--

令和5年度前期日程試験解答用紙（数学）

第3問

- (1) 2023 を素因数分解すると、 $2023 = 7 \times 17$ である。
- (2) 2023 に 7×17 を掛けると、 (7×17) となるので、求める自然数は $7 \times 17 = 833$ である。
- (3) まず、整数解を求める。与えられた方程式の両辺を7で割って

$$7x + 13y = 289 \quad (\text{A})$$

更に変形して、 $7(x - 41) + 13y = 2$ となる。 $7 \times 4 + 13 \times (-2) = 2$ であるので、(A) を満たす整数解の1つは、 $x = 45$ 、 $y = -2$ である。これを (A) に代入すると、

$$7 \times 45 + 13 \times (-2) = 289 \quad (\text{B})$$

(A) - (B) から、 $7(x - 45) + 13(y + 2) = 0$ を得る。変形して

$$7(45 - x) = 13(y + 2) \quad (\text{C})$$

7 と 13 は互いに素であるから、 $45 - x$ は 13 の倍数。よって、 m を整数として、 $45 - x = 13m$ 、すなわち、 $x = 45 - 13m$ と書ける。このとき、(C) から、 $7m = y + 2$ 、すなわち、 $y = 7m - 2$ となる。

次に、自然数解を求める。 x, y は自然数だから、 $x = 45 - 13m > 0$ 、すなわち、 m は 3 以下。また、 $y = 7m - 2 > 0$ 、すなわち、 m は 1 以上。したがって、求める自然数の組は $(x, y) = (32, 5), (19, 12), (6, 19)$ である。

- (4) 与えられた方程式を変形して

$$\begin{aligned} (x + 16)(y + 116) - 16 \times 116 - 167 &= 0 \\ (x + 16)(y + 116) &= 2023 \end{aligned}$$

x, y は自然数だから、左辺の $x + 16, y + 116$ はともに整数で、それぞれ 16, 116 よりも大きい。

一方、右辺の 2023 の約数は、1, 7, 17, 119, 289, 2023 の 6 つ。よって、

$$\begin{aligned} x + 16 &= 17 \\ y + 116 &= 119 \end{aligned}$$

したがって、求める自然数の組は $(x, y) = (1, 3)$ である。

第3問 得点	
-----------	--

